2017,1,8　　新春ルンルン散歩　三上山トレッキング記

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

お天気が心配でしたが、心配するほどでもなく、三上山の自然・歴史・眺望などを楽しみました。古代峠で昼食。しばらくすると、小雨が降り出しました。三神社の境内で高島名物の栃餅ぜんざいをご笑味。（小雨の内に下山。）今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆歴史など

（歴史―1　三上山）

社記によると人皇第七代考霊天皇六年（296）六月十八日天照大神の御孫の御上祝（神主）等は、三上山を清浄な地とし神体山として崇め祀った。頂上奥宮の正面にある磐盤は奥津磐座（磐鞍）と呼んで、神宿る神盤と言われている。山中に水を蓄えているので氏子などは竜王様と称し、信仰の聖地となっている。毎年六月十八日未明祭神御降臨の日に登頂し、神迎えの山上祭がある。孤峰に見える三上山も近くでは男山女山の二峯からなり山麓の御上神社とともに歴史的にも名高い。

（歴史―２　妙光寺山磨崖仏）

崖に露出する岩に畳一枚ほどの長方形の切り込みを作り、その中に高さ 160cm　厚さ 10cm の地蔵立像を彫出したもので書込地蔵と呼ばれている。鎌倉時代のもので、宝珠、錫杖を持ち、線刻の蓮華座の上に立つ穏やかな顔は、なんとも言えぬ親しみを感じる。尊像は、東ある一点を見守っており、像の左右には元享四年（１３２４年）七月十日の造立、大願主経貞と刻銘され、随所に鎌倉時代を良く示すと共に、磨崖仏の在銘が残っていることは何よりも貴重なものである。それに尊像の足に沓をはいているのも大変めずらしい。

（歴史―２　磨崖仏）

磨崖仏とは，自然石の崖などに彫刻された仏のことです。そんな磨崖仏が，滋賀県南部（湖南）にはいくつか見られます。磨崖仏は奈良時代後期～鎌倉・室町～江戸時代初期頃に作られていますが，なぜ近江南部にたくさん見られるのか？また，険しい山岳地帯に多く見られるのか？

これら磨崖仏や石塔などの**石の文化**は，遠い昔，大陸（中国や韓国）からの渡来人が伝えたものと思われます。磨崖仏が近江に多いのは，近江に根付いた，この渡来人に由来する石の文化と「**修験道**」とが結び付いた結果であるようです。

（**修験道**とは，仏教の一派である密教（天台宗・真言宗）で行われていた山中での修行と日本古来の山岳信仰とが結びついたものです。その主な舞台は奈良・三重～京都・滋賀の山岳地帯でした。）

◆トレッキング記

眺望を楽しむ①

割岩①

割岩②頑張って通過

岩場もあり変化に富んだコース

眺望を楽しむ②

山頂：　奥宮

山頂 432m

約 1500 年前
竜神さまを祀る

妙光寺山磨崖仏
「どうして彫ったんでしょうね。」

下山。三神社で
高島名物栃餅ぜんざいをご笑味